

令和5年度 気仙沼土木事務所 概要



令和5年2月17日に供用開始した（主）気仙沼唐桑線「化粧坂道路改良事業」

あす
明日につなぐ × ミヤギドボク

令和5年4月

 宮城県気仙沼土木事務所



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

1 管内の概況

当管内は、宮城県北東部の太平洋沿岸部にあり、岩手県南部と接するところに位置し、気仙沼市・南三陸町の1市1町で構成されている。

本圏域は、三陸復興国立公園及び県立自然公園気仙沼に指定されており、白砂青松の美しい海岸と世界有数の漁場など恵まれた条件を背景に水産業・林業・観光業等を基幹産業として発展してきたが、近年の漁船漁業の衰退に伴う水産業・造船業の不振、高速交通体系の未整備などにより地域経済が低迷している。人口も約7.2万人（令和4年3月末現在）と昭和55年の11万6千人をピークに年々減少しており、特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、発災1年後の平成24年3月には約7千人が減少した。

このため、水産拠点都市や海洋文化ゾーンの形成や地域産業の再生・活性化には不可欠な、三陸沿岸道路、県北高速幹線道路などの高速交通体系の整備をはじめ、弘川ダム、大島架橋、河川、道路、砂防、港湾、海岸保全など生活基盤や生産基盤の整備推進が強く求められている。また、東日本大震災により、広域かつ甚大な被害を受けた気仙沼市及び南三陸町における防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等の復興まちづくりへの支援としても、公共土木施設の早期復旧・復興が求められている。

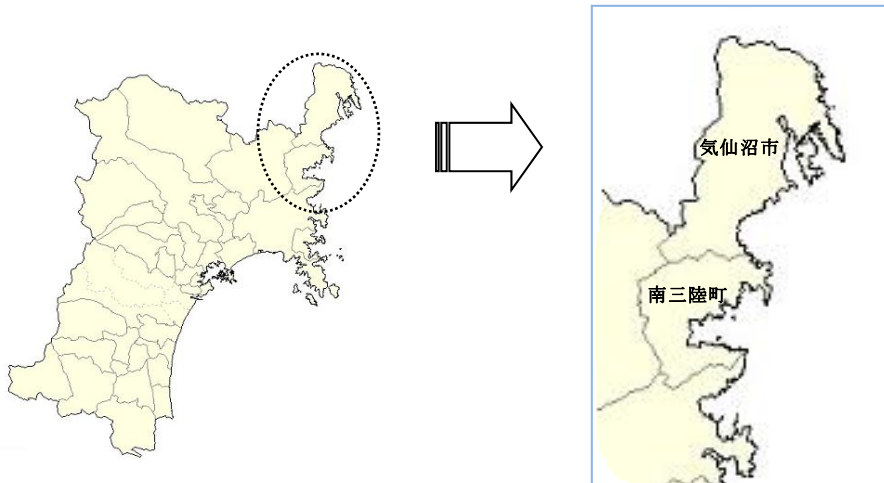
そうした中、弘川ダムは平成25年度に完成し管理ダムへ移行し、大島架橋事業では気仙沼大島大橋が平成31年4月に開通。全区間の早期供用に向け整備を推進し全事業区間L=8kmが令和3年3月に開通した。さらには、復興まちづくりを支援する復興道路工事や災害復旧事業についても事業の完遂に向け着実に事業を推進している。

所管区域

区分	市・町長名	面積 (km ²)	世帯数 (世帯)	人口(人)			人口密度 (人口/km ²)
				男	女	計	
気仙沼市	菅原 茂	332.44	26,162	28,873	30,789	59,662	179.47
南三陸町	佐藤 仁	163.40	4,444	5,979	6,156	12,135	74.27
計		495.84	30,606	34,852	36,945	71,797	144.80

(注) 世帯数及び人口は住民基本台帳による令和4年3月末現在のものである。

面積は、国土交通省国土地理院調査による令和4年1月1日現在のものである。



(1) 道路管理の現況

R4.3.31現在

道路種別	実延長 (m)	改良済み		舗装済み		橋梁		トンネル		路線数
		延長 (m)	率	延長 (m)	率	橋数	延長 (m)	数	延長 (m)	
国道 (指定区間外)	37,560.2	37,560.2	100.0%	37,560.2	100.0%	33	1,388.7	2	610.0	3
主要地方道	58,336.8	54,091.5	92.7%	58,243.0	99.8%	34	575.8	2	370.5	5
一般県道	94,571.3	67,213.9	71.1%	90,674.7	95.9%	39	1,153.1	5	558.0	10
計	190,468.3	158,865.6	83.4%	186,477.9	97.9%	106	3,117.6	9	1,538.5	18

(2) 河川管理の現況

R4.3.31現在

種別	水系名	河川名	河川延長(m)	摘要
二級河川	青野沢川	青野沢川	1,300	
	只越川	只越川	280	
	鹿折川	鹿折川	7,900	
	大川	大川, 神山川, 松川, 八瀬川, 金成沢川, 廿一川	45,990	6 河川
	面瀬川	面瀬川	3,550	
	沖ノ田川	沖ノ田川	2,800	
	津谷川	津谷川, 外尾川, 馬籠川, 山田川, 荒田川	24,035	5 河川
	港川	港川	2,500	
	稲淵川	稲淵川	200	
	伊里前川	伊里前川	7,800	
	桜川	桜川	2,185	
	新井田川	新井田川	2,100	
	八幡川	八幡川	5,500	
	水尻川	水尻川	3,400	
	折立川	折立川, 西戸川	4,500	2 河川
	水戸辺川	水戸辺川	3,124	
	長清水川	長清水川	1,324	
計	17 水系	27 河川	118,488	

(3) 砂防指定地の現況

R4.3.31現在

市町	指定箇所数	指定面積 (ha)
気仙沼市	82 箇所	347.91
南三陸町	36 箇所	80.32
計	118 箇所	428.23

(4) 急傾斜地崩壊危険区域の現況

R4.3.31現在

市町	指定箇所数	人家 (戸)
気仙沼市	45 箇所	1,404
南三陸町	7 箇所	130
計	52 箇所	1,534

(5) 海岸保全区域指定の現況

R4.3.31現在

(イ) 国土交通省 水管理・国土保全局 所管海岸

海岸名	指定区域	区域延長(m)	面積(m ²)	備考
唐桑海岸	荒谷前地区海岸、稲村浜地区海岸、後馬場地区海岸、小滝浜地区海岸、高石浜地区海岸、 栢浜地区海岸、田の浜地区海岸、藤浜地区海岸、西舞根地区海岸西舞根貝地先海岸、 西舞根地区海岸日向貝地先海岸	4,182	324,932	
気仙沼海岸	片浜地区海岸、千岩田地区海岸、台ノ沢地区海岸、最知地区海岸、 大島地区海岸亀山磯草地先海岸、大島海岸大初平地先海岸、 大島地区海岸中沢地先海岸、大島海岸高井浜大向地先海岸、 大島地区海岸磯草地先海岸、大島地区田中浜地先海岸、 杉の下地区海岸、波路上地区海岸岩井崎地先海岸	10,373	892,791	
本吉海岸	沖の田地区海岸、大谷地区海岸、大谷沼尻地区海岸、中島地区海岸、 今朝磯地区海岸	7,656	1,755,142	
歌津海岸	長須賀地区海岸、館浜地区海岸、寄木地区海岸、韭の浜地区海岸	3,531	633,160	
志津川海岸	権現地区海岸、荒砥地区海岸、黒崎地区海岸、水戸辺地区海岸、 波谷谷地区海岸、寺浜地区海岸、戸倉地区海岸戸倉地先海岸	4,839	257,454	
計	38 地区	30,581	3,863,479	

(ロ) 国土交通省 港湾局 所管海岸

海岸名	指定区域	区域延長(m)	面積(m ²)	備考
気仙沼港海岸	小々汐地区海岸、梶ヶ浦地区海岸、朝日地区海岸	2,510	172,354	
御崎港海岸	下の浜地区海岸、崎浜地区海岸	900	9,998	
計	5 地区	3,410	182,352	

計	43 地区	33,991	4,045,831	
---	-------	--------	-----------	--

(6) 港湾施設の概要

R5.3.31現在

種別	区分	名称	備考
気仙沼港	公共岸壁	朝日埠頭 (- 4. 5) 1号, 2号, 3号	186 m
		朝日埠頭 (- 7. 5) 1号, 2号, 3号	390 m
	臨港道路	朝日大川線	1,540.7 m
		ふ頭西2号線, ふ頭西3号線, ふ頭中央線, ふ頭東線, 朝日宮下線, ふ頭西線	814.4 m
		荷さばき地等	13,570 m ²
	野積場		14,944 m ²
	海岸施設	護岸, 胸壁	2,519 m
御崎港	公共物揚場	-4.0m 物揚場	55 m
		-3.5m 物揚場	41 m
		-2.0m 物揚場	61 m
	公共船揚場	御崎船揚場	29 m
	臨港道路	御崎臨港道路	148 m
	緑地	御崎港緑地	3,253 m ²
	海岸施設	防潮堤, 護岸	429 m

2 東日本大震災による被害概要

(1) 震災の概要 (気象庁データ)

- ・発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分頃
- ・震央地名 三陸沖(北緯38°6.2′ 東経142°51.6′) 深さ24km
- ・規模 マグニチュード9.0
- 断層の大きさ 長さ約450km 幅約150km
- 断層のすべり量 最大 30m

(2) 気仙沼土木事務所管内の震度

- ・6 弱 気仙沼市赤岩、気仙沼市唐桑、南三陸町志津川、南三陸町歌津
- ・5 強 気仙沼市本吉

(3) 気仙沼土木事務所管内の人口と震災被害

R5.3.31 現在

人口	気仙沼市	南三陸町	管内計
① 平成22年11月(国勢調査)	73,489	17,429	90,918
② 令和5年3月末	58,370	11,883	70,258
③ ②÷① (%)	79%	68%	77%

R4.3.31 現在

被害概要	気仙沼市	南三陸町	管内計①	県内(参考)②	①/②
震災被害(人的被害)					
死者数	1,218	620	1,838	10,568	17.4%
直接死	1,109	600	1,709	9,639	17.7%
間接死	109	20	129	929	13.9%
行方不明者	214	211	425	1,216	35.0%
計	1,432	831	2,263	11,784	19.2%
震災被害(住家被害)					
全壊	8,483	3,143	11,626	83,005	14.0%
半壊	2,571	178	2,749	155,130	1.8%
一部破損	4,761	1,204	5,965	224,202	2.7%
計	15,815	4,525	20,340	462,337	4.4%

気仙沼市
【大川】



南三陸町歌津
【(一)泊崎半島線】

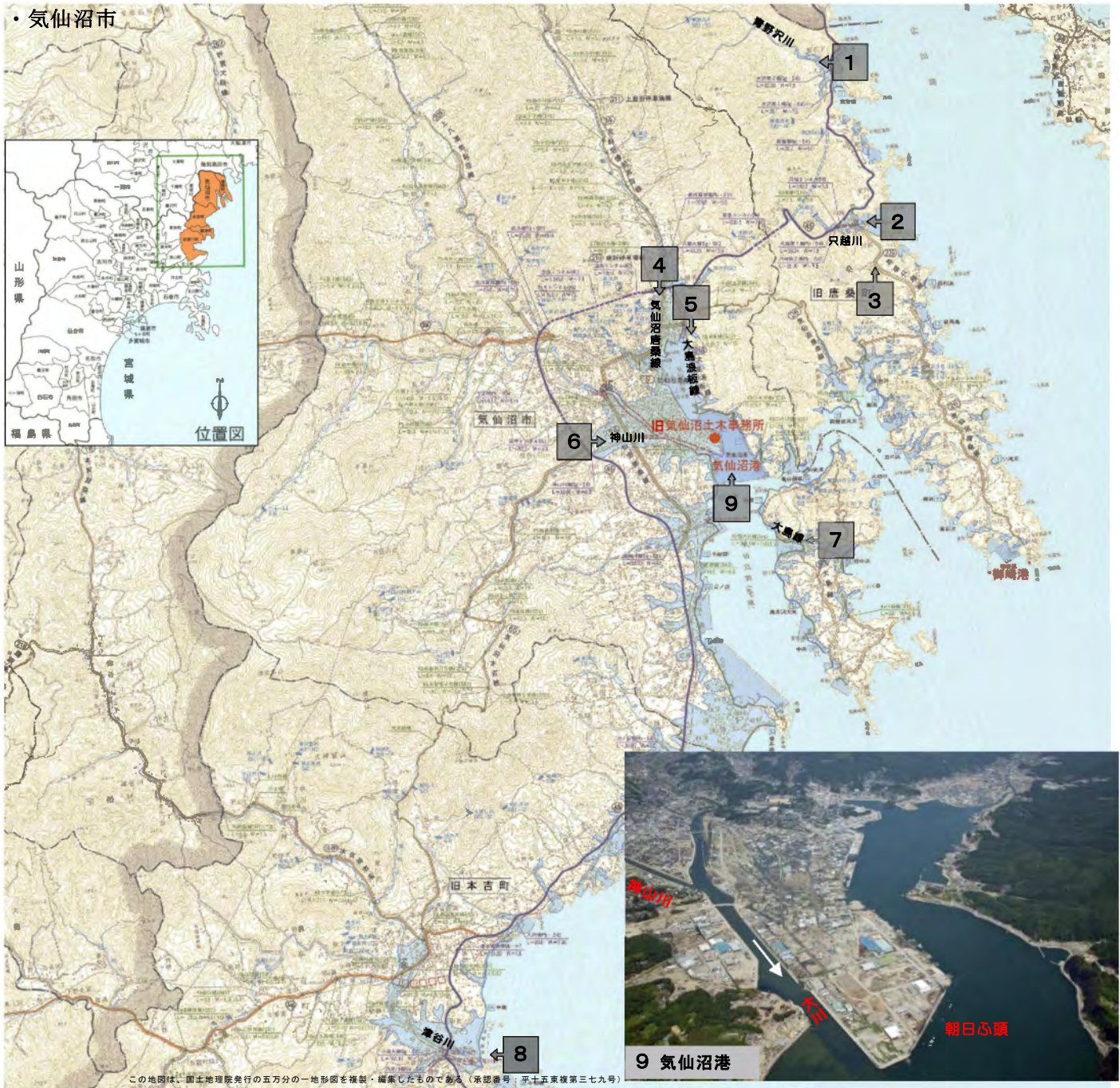


南三陸町志津川
【水戸辺川】



(4) 震災時の浸水区域と被災写真

・気仙沼市



この地図は、国土地理院発行の五万分の一地形図を複製・編集したものである（承認番号：平十五東復第三七九号）



1 青野沢川



2 只越川



3 馬場只越線



4 気仙沼唐桑線



5 大島浪板線



6 神山川



7 大島線



8 津谷川



9 気仙沼港



3 復旧・復興について

(1) 復旧・復興事業

■復旧事業

- 令和4年度は鹿折川、面瀬川、港川の3箇所が完了し、被災箇所187箇所のうち99.5%となる186所が完了した。
- 港湾、道路・橋梁は全箇所完成済み。河川については、残る大川外（神山川）の工程管理を徹底し令和5年12月の完成に向け事業の推進を図る。

【復旧事業】

令和5年3月末時点

◎箇所数ベース

(単位：箇所)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	123	123	123	100.0%	100.0%
河川・海岸	53	53	52	100.0%	98.1%
港湾	11	11	11	100.0%	100.0%
合計	187	187	186	100.0%	99.5%

※河川 全体21箇所 うち完了20箇所(95.2%) 未完了1箇所
 海岸 全体32箇所 うち完了32箇所(100.0%)
 合計 全体53箇所 うち完了52箇所(98.1%) 未完了1箇所

■復興事業

- 令和4年7月に国道284号猿岩橋の耐震補強工事が完了し全23箇所が全て完了した。

R4年度完了箇所

●河川 1鹿折川, 2面瀬川, 3港川 (計3箇所)

R4年度末時点 未完了

●河川 1大川外1河川 (計1箇所)

復興梓事業

【地方道補助】

- (一)大島浪板線の大島架橋事業であるが、三陸道ICと国道45号の接続及び気仙沼市内と大島を結ぶアクセス道路でもある。令和2年10月に事業区間の供用を開始し、残工事についても令和3年度内に完成した。

◎事業費ベース

(単位：億円)

	全体	契約額		契約率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	129.6	129.6	129.6	100.0%	100.0%
河川・海岸	2,222.7	2,222.7	2,220.3	100.0%	99.9%
港湾	90.2	90.2	90.2	100.0%	100.0%
合計	2,442.5	2,442.5	2,440.1	100.0%	99.9%

※事業費は、現時点での事業費としている

【大島架橋事業（離島）】

- (一)大島浪板線の大島架橋事業における離島事業区間であり、本土から気仙沼大島へのアクセス道路となる。5.3kmの離島事業区間のうち、気仙沼大島大橋は平成31年4月より供用を開始した。令和3年3月に全事業区間の供用を開始し、残工事についても令和3年度内に完成した。

【復興事業】

令和5年3月末時点

◎箇所数ベース

(単位：箇所)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	15	15	15	100.0%	100.0%
河川・海岸	6	6	6	100.0%	100.0%
港湾	2	2	2	100.0%	100.0%
合計	23	23	23	100.0%	100.0%

●復興事業は全て完了

※【社総交】気仙沼唐桑線（1松崎馬場～八日町, 2化粧坂, 3化粧坂(強靱化)）は未了

R4年度完了箇所

●道路・橋梁【復興梓】1猿岩橋 (計1箇所)

※【社総交】気仙沼唐桑線（1松崎馬場～八日町, 2化粧坂, 3化粧坂(強靱化)）(計3箇所)

R4年度末時点 全箇所(23箇所)完了

【河川及び海岸事業】

- 大谷地区海岸については平成30年1月に工事着手したが、市のまちづくり計画と調整しながら整備を進め、令和3年度に事業完了した。

【港湾事業】

- 平成30年度に気仙沼港朝日ふ頭における防潮堤の陸閘2基が完成し、引き続き陸閘自動・遠隔化機器を整備し、令和2年6月より陸閘自動閉鎖システムの運用を開始した。

◎事業費ベース

(単位：億円)

	全体	契約額		契約率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	415.4	415.4	415.4	100.0%	100.0%
河川・海岸	107.9	107.9	107.9	100.0%	100.0%
港湾	11.6	11.6	11.6	100.0%	100.0%
合計	534.9	534.9	534.9	100.0%	100.0%

※事業費は、現時点での事業費としている

4 東日本大震災からの復旧・復興の課題

(1) 予算額と職員数の推移

○ R5年度予算

約51億円

※震災前(H22年度)の

約1.0倍

(約49億円(H22))

→約51億円(R5))

○ R5年度職員数

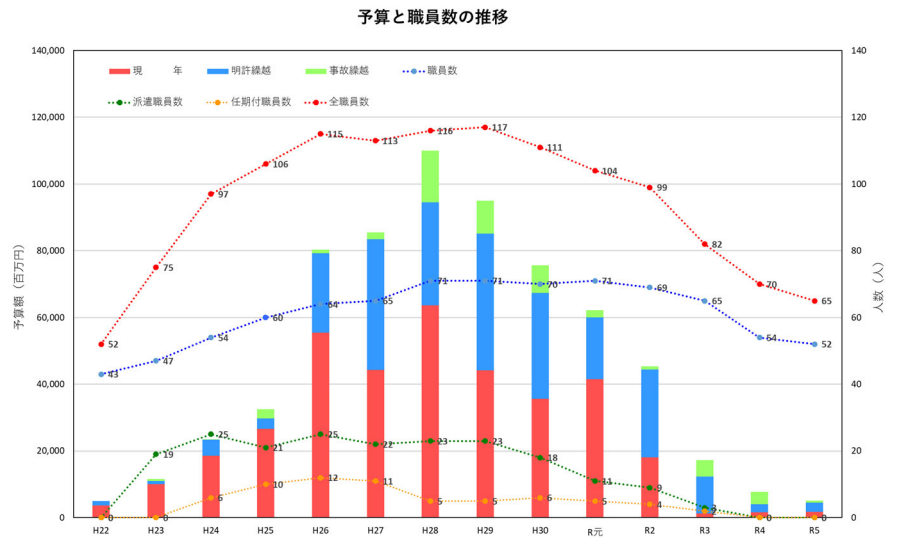
65名

※震災前(H22年度)の

約1.3倍

(52人(H22))

→65人(R5))



(2) 工事が進む災害復旧箇所等の状況（令和5年3月末現在）

神山川（気仙沼市南郷地内）



下流から望む



上流から望む

5 令和4年7月豪雨による被災状況及び災害復旧について

○道路

【(国)398号】



【(一)馬籠志津川線】



○河川

【大川】

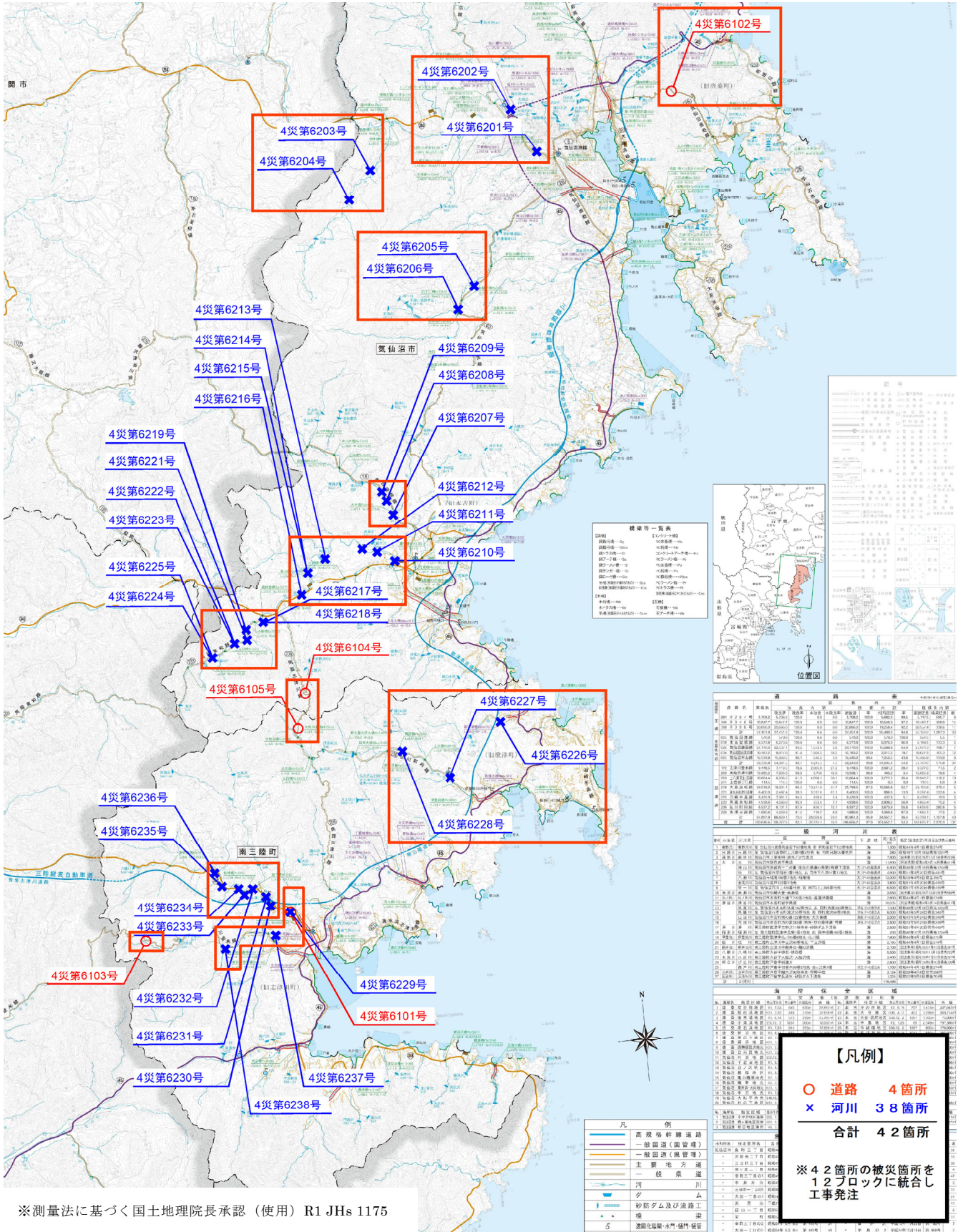
【八幡川】



【馬籠川】



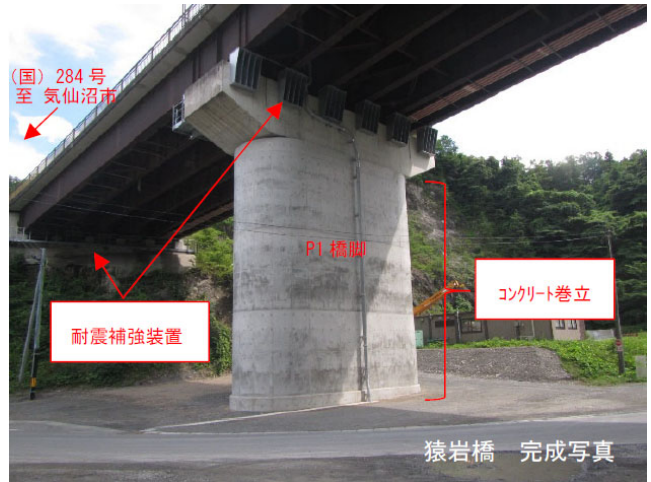
令和4年7月豪雨に伴う被災箇所及び災害復旧工事



6 令和4年度における完成・供用開始など

(1) 東日本大震災（道路）

①令和4年7月 (国) 284号 猿岩橋 耐震補強工事完了



(2) 東日本大震災（河川）

①令和4年4月 鹿折川 災害復旧事業完了



②令和4年5月 面瀬川 災害復旧事業完了



③令和5年3月 港川 災害復旧事業完了

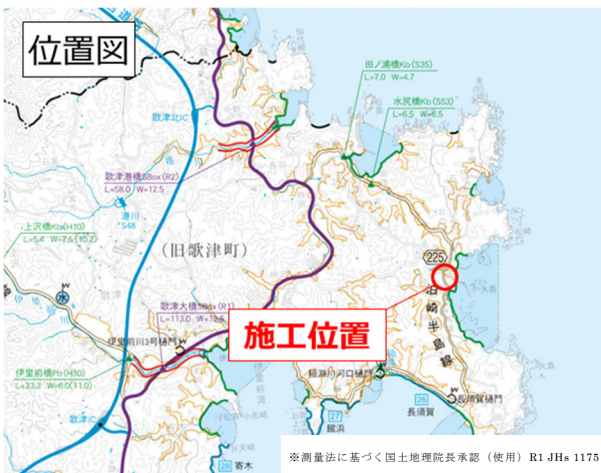


(3) 供用開始

①令和5年2月17日 (主) 気仙沼唐桑線 化粧坂道路改良事業 供用開始



②令和4年9月30日 (一) 泊崎半島線 名足歩道設置事業 供用開始



7 令和5年度の主要事業

(1) 災害復旧事業の推進

- ・東日本大震災により被災した187箇所の内、最後の1箇所となる神山川の災害復旧工事を令和5年12月までに完了させるとともに、事業損失補償契約を進捗させる。
- ・令和4年7月豪雨による災害復旧工事については被災箇所42箇所を12ブロックに統合し、令和5年3月までに全ての工事の契約が完了しており、令和5年度内の完成を目指す。

(2) 化粧坂道路改良工事（2期工事）の推進

- ・化粧坂道路改良工事（2期工事）については、工事発注に遅延が生じないように進捗管理を徹底し、11月からの工事着手を目指す。

(3) 河道掘削による治水安全度の向上

- ・大川は国土強靱化等を活用しながら段階的な河道掘削を進め、治水安全度を向上させる。
- ・令和元年東日本台風による豪雨で浸水被害を受けた松川については、気仙沼市と連携しながら地元住民との合意形成を図り、内水対策等も含めた治水対策を推進する。
- ・令和4年7月豪雨で被害の大きかった馬籠川について、地元団体と3回の意見交換会を実施しており、引き続き、綿密に調整を図りながら河道掘削等の治水対策を推進する。

(4) 砂防事業の推進

- ・砂防メンテナンス事業である滝の入沢砂防堰堤緊急改築事業及び館沢砂防堰堤緊急改築事業については工程管理を徹底し、事業の推進を図る。
- ・設計を進めている童子下沢砂防堰堤事業及び福美沢砂防堰堤事業については、早期に工事着手できるように用地買収等を推進する。

(5) 土砂災害警戒区域の指定に向けた基礎調査の推進

- ・管内の危険箇所706箇所のうち、地形改変等による除外箇所10箇所を除く696箇所において、令和5年3月までに622箇所が指定済み（89.4%）となっており、令和5年度内に残る74箇所の指定を目指す。

(6) 地域維持型契約方式の推進

- ・令和4年度に旧気仙沼市内と旧本吉町内の2地区において道路・河川・海岸維持管理業務及び除融雪業務を包括し、9月末切替えとする複数年契約（1.5年）を行っており、令和5年度は、メリット・デメリットの検証を行いながら、旧歌津町内と旧志津川町内にも拡大できるか地元建設業と検討する。